

自 己 評 価 表

愛媛県立今治特別支援学校

| | | | |
|-------------|---|-------------|---|
| <p>教育方針</p> | <p>児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するための「生きる力」を育成する。 1 生きて働く知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成を図り、主体的に学ぶ態度を養う。 2 個性を生かし、多様な人々と共に支え合い、よりよく生きる力や豊かな心を育む。 3 心身の調和的発達を図り、健康・安全で活力ある生活を送るために基礎を培う。</p> | <p>重点目標</p> | <p>1 自立と社会参加のための「生きる力」を育てる学校づくり 2 安全・安心で、健やかな心身を育てる学校づくり 3 連携・協働によるチームとしての学校づくり</p> |
|-------------|---|-------------|---|

| 領域 | 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | 目標の達成状況 | 次年度の改善方策 |
|------|---------------|---|----|--|---|
| 学習指導 | 学習内容・方法の工夫・改善 | <p>○新学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、児童生徒が分かる喜びや学ぶ意義を実感できる授業づくりを行う。 ○学級や各授業の学習集団において、児童生徒と教師、児童生徒同士の安定した関係を築く。 ○共に認め合い、協働する態度を育む交流及び共同学習を実践する。</p> | C | <p>感染症対策のため、授業の形態や内容の制限や変更が必要となったが、教材や授業構成を工夫して対応した。児童生徒の学校評価アンケートでは、「授業はよく分かり楽しい」が各学部とも90%以上となり、全体では昨年度の92.0%から95.6%に上昇した。小中学部のふれあい親善大使の活動や高等部と今治東中等教育学校との交流学習など、時期や内容を調整して可能な範囲で交流・共同学習を実施した。</p> | <p>学習環境が変化した場合にも児童生徒の学習の機会を確保できるよう、様々な環境下を想定した教材や教具の検討や作成に努める。学習指導要領の趣旨と内容を踏まえ、履修状況等の情報を共有し、学年や学部を通した「連続性のある学び」づくりに取り組む。感染症対策に留意しながら、様々なグループや地域の学校、団体との交流及び共同学習の実践に努める。</p> |
| | 教職員の授業力の向上 | <p>○学級経営や各授業において、チーム・ティーチングによる指導・支援の充実を図る。 ○研修日の内容の充実を図り、自立活動の指導に関する授業実践力を強化するとともに、授業改善を活性化する。 ○認定講習や放送大学等の情報を提供し、教職員の免許状取得率を向上させる。</p> | C | <p>主体的対話的で深い学びについて全校で学び、共通理解を図った。そして、キャリアアップ研修Ⅱの研究授業を題材に日々の指導での生かし方を協議し、授業改善やチーム・ティーチングの充実を図った。また、今年度は1人1台端末が導入されたため、図書情報課と協力して研修日はICTの活用に関する内容を年間を通して扱った。教職員の認定講習受講を推進したが、コロナ禍ということもあり、免許保有率は78%にとどまった。</p> | <p>授業改善、自立活動の研修において、研修が授業実践や指導に生かされるよう内容や方法、時期を工夫し、年間を通して計画的に実施する。基礎研修等の授業研修会の内容や方法を工夫し、全校研修として活用して活発な協議を促すことで、学習指導要領等への理解を深め、授業改善や実践力の向上を図る。教職員の免許状取得率100%を目指す。</p> |
| | ICT機器の活用 | <p>○教職員研修を通して、Wi-Fi環境を授業で活用することができるようにする。 ○1人1台端末を有効に活用し、児童生徒の興味関心を高め、理解しやすい教材提示を行うことで、授業の充実を図る。 ○校務系システムやセキュリティ対策に関する教職員の意識向上を図る。</p> | B | <p>多くの研修機会を設定して教職員のICT活用能力と情報リテラシーの向上に努め、iPadのアプリやクラウドサービスの活用方法を伝える中で、現状対応できる範囲で授業において情報端末の活用を行いやすい環境作りを行った。</p> | <p>基本的な端末の使い方やクラウドサービスの利用法、セキュリティに関する研修などについて設定して職場全体のICT活用能力の向上を図る。また、授業での1人1台端末を利用したICTの活用については、教員同士が相互に利用法を検討することでよりよい活用法を探る。</p> |

| | | | | | |
|------|-----------------|---|---|---|---|
| 生徒指導 | 児童生徒理解の充実 | <p>○児童生徒の問題行動の早期発見・予防に努めるとともに、児童生徒が主体的に判断・行動する力を高める生活指導を行う。</p> <p>○児童生徒の発達段階や特性に応じた系統的な性教育に取り組む。</p> | B | <p>教員同士で児童生徒の情報交換を行い、学級担任が児童生徒の様子を細かく観察することで、問題行動の早期発見、早期対応に努めた。また、関係機関と連携を図り、個々の事案に対して組織的に対応した。性教育については、発達段階に応じた課題などを共通理解し、学級活動や授業の中で取り組んだ。</p> | <p>校内だけでなく、校外での問題行動も多く発生していたため、家庭や関係機関とも連携を図り、児童生徒が主体的に判断・行動する力を高められるよう、支援・指導を行う。</p> <p>引き続き、児童生徒の発達段階に応じた性教育を推進し、個々のケースに応じて、保護者や関係機関と連携を図った支援を行う。</p> |
| | 学校行事・児童生徒会活動の充実 | <p>○新学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、それぞれの学校行事や児童生徒会活動で育成を目指す資質・能力を明確にし、児童生徒の主体的な参加を促す。</p> <p>○学校行事や児童生徒会活動の内容や方法の見直しを行い、児童生徒のニーズや実態に即した活動内容や参加方法を検討する。</p> | C | <p>感染拡大のため、行事の中止や変更が相次ぐ中、実施方法を工夫しながら、可能な方法で全校朝礼や児童生徒総会、デジタル文化祭を開催した。オンライン形式での行事の開催も計画したが、感染拡大と、設備の不調や通信環境の不安定さから断念した。</p> | <p>ICT機器を活用した学校行事の可能性を今後も広げていくと同時に、感染収束後に向けて、学校行事の在り方を見直したい。文化祭では実施方法を工夫し、3年ぶりの販売を実施したい。また、奉仕活動や地域との交流も、状況を見ながら復活させていきたい。</p> |
| | 人権教育の充実 | <p>○児童生徒が互いに認め合い、共に学び合える教育活動の実践を目指し、教職員の資質向上を図る。</p> <p>○いじめの早期発見・早期解決を目指し、「いじめアンケート」の実施時期やアンケート結果の共有及び対応方法の充実を図る。</p> | B | <p>教職員の資質向上を図るために、同和教育の視点に立ったDVD視聴による研修会を実施した。また、教職員対象の人権・同和教育に対するアンケートを実施し、回答結果をまとめて、全教職員で共有した。日頃から、児童生徒の様子を細かく観察し、いじめの早期発見・早期対応に努めた。また、「いじめアンケート」も2回実施し、いじめの記載があった内容に対しても、すばやく対応・解決している事案が多かった。</p> | <p>出張や研修会等で得た情報や関係資料を教職員に配布し、その共有や啓発に努める。今年度のアンケート結果を参考に、教職員が興味関心を持ちやすい内容の研修会を実施する。各職員室に常設する本やDVDを教職員から募り、手に取りやすい内容の物を選び、掲示板などで発信する。</p> |
| 進路指導 | キャリア教育の推進 | <p>○小学部から高等部までの組織的・系統的なキャリア教育全体計画を作成して、年齢段階に応じたキャリア教育を推進し、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を高める。</p> <p>○全学部の教職員を対象とした技能検定に関する研修を実施し、各部において技能検定や将来の就労を見据えたキャリア教育を推進する。</p> | C | <p>各部で実施方法を工夫し、キャリアガイド教室等を企画し実施した。中には、学級全体で検定を見据えた活動に取り組み、実際に1級を取得する生徒も出るなどの成果を上げたクラスもあった。</p> <p>技能検定の研修については、コロナウイルス感染拡大により、全体で集まる研修は実施できなかった。「机拭き」の練習用VTRは現在作成中であり、全体に発信できなかった。</p> | <p>今後も児童生徒が自らの知識や経験を他者に伝える体験を増やしたり、先輩の姿を見て将来のイメージを深めたりする機会を増やすため、他学部間の交流を活発していくよう広く周知していく（キャリアガイドとして他学部の先輩に依頼する活動も取り入れる）。</p> <p>技能検定の動画資料を充実させ、各学部の状況に応じて利用できる環境を整える。</p> |
| | 進路指導・就労支援の充実 | <p>○丁寧な進路指導と就労支援を行うとともに、保護者への情報提供と方針の共有化に努め、一人一人の進路希望の実現を図る。</p> <p>○技能検定に向けた取組を推進させるとともに、検定受検者(延べ人数)のうち、1～3級の認定者70%以上を実現する。</p> | B | <p>高等部3年生については、保護者の同意の上、個別に実習を行い、就労支援を行った。施設作業所関係合同説明会を参加者や地域を限定して実施し、その中で保護者の施設見学や体験実習への協力をお願いした。高等部1・2年生段階で個別に体験実習を実施するケースも増え、保護者の進路に対する意識の高まりを感じている。技能検定では、練習時間の確保が課題である普通科の生徒が増えたが、1～3級が地区検定で85.7%、県検定で75.9%と目標を達成することができた。1年生で県検定1級を取得した生徒や普通科からも1級認定者を出すことができた。</p> | <p>今後とも生徒には進路相談にて十分に情報提供を行い、適切な進路実現に向け支援を行う。保護者からの問合せについては、進路ニュースや個別対応で情報提供を行っていく。技能検定については、教材の充実、指導力向上を図り、早い段階から基礎を身に付けて、全体の底上げをしていく。特に練習時間の確保が難しい普通科生徒については、年度の早い段階で受検の意向を確認し、計画的に練習を積めるようにする。高等部では、教員が一人一種目を担当し、指導力向上に努める。</p> |

| | | | | | |
|----------|---------------|---|---|--|--|
| 保健・安全 | 健康な生活づくりの充実 | <p>○児童生徒が安心して学習を受けられるよう、手洗いの呼び掛けや施設の消毒などを行い、感染症の予防に努める。</p> <p>○スポーツに関わる研修を行い、指導力の向上とともに、普及に努める。</p> <p>○必要に応じて栄養教諭のアドバイスを受けながら、児童生徒の実態に応じた給食指導を行う。</p> | C | <p>手洗いや換気、消毒の呼び掛けなどの注意喚起を日常的に行った。新型コロナウイルスの感染が拡大している時期には、各部主事とも連携して授業の工夫などを行い、感染予防に努めた。また、朝の運動の場所を各教室になるなど、活動制限が掛かる時期に、授業の参考になる教材の提供などが不十分であった。可能な範囲で栄養教諭による給食中の見回りや、必要に応じてアドバイスなどを行った。</p> | <p>今後も学校医や教職員からの意見等を参考にしながら、必要な対応（消毒の設置など）を行っていく。特に年度初めには感染症対策に関する情報を提供・共有するなどの改善をする。</p> |
| | 学校安全管理の充実 | <p>○日々校内の安全に意識を持ち児童生徒の安全に留意した授業を行うよう推進し、ヒヤリハットの事例や施設の改善について随時周知する。</p> <p>○事故や災害から身を守る安全教育の視点をもって授業を行い、児童生徒の安全に対する意識の向上を図り、具体的な役割分担を理解し行動力を高める。</p> <p>○実効性の高い避難訓練の実施と避難訓練にリンクしたカリキュラムにより防災教育を進め、教材の充実や活用の工夫に努める。備品等を含めた防災整備に取り組み、教職員の危機管理意識及び機器の取扱いを含め対応力を高める。</p> | B | <p>自然、生活、交通災害への危機管理対応マニュアルを作成し、全教職員に安全の意識付けや対応を促した。環境や設備などの事故がなく、ヒヤリハットについては事務課を中心に対応し、改善に努めた。単独通学生指導では、地震時の知識と行動について伝え、登下校時の安全に対する意識、行動力の向上につながった。津波時の避難訓練や引渡し訓練、新たに児童生徒及び教職員に防災用品体験、防災教材の紹介や保護者と教職員への防災講演、防災教育の研修、他校や行政との情報交換を行った。防災に必要な品を備え、組織として防災意識の向上や津波想定の新たな避難場所や福祉避難所化に取り組んだ。</p> | <p>安全に取り組めるようヒヤリハット事例を共有し、学校全体での安全意識を高める。生徒も扱えるアプリの紹介や使用を進め、災害時の知識と行動力を身に付けられるよう指導・支援する。福祉避難所としての対応力を構築し、関係機関と連携を図る。</p> |
| 保護者・地域連携 | 保護者との連携 | <p>○連絡帳、電話連絡、マチコミメール等により、地域・家庭・児童生徒の情報を共有するとともに、日々の授業や生活につなげ、感染症の予防及び健康の保持増進を図る。また、年度末には個別の教育支援計画を基に引継ぎ事項を確認し、保護者と支援の方針・内容を共有し、協働性を高める。</p> <p>○PTA活動では、感染状況を視野に入れながら活動内容を十分に検討し、拡大防止策を講じながら可能な限り活動内容を工夫して取り組む。</p> <p>○ICTを活用した教育活動や情報発信に努め、ホームページ等により学校教育活動の様子を伝えたり、学校行事等について保護者への連絡、周知徹底を図ったりする。</p> | C | <p>保護者からは、連絡帳や電話により学校の様子がよく分かる等の感想があった。引継ぎや今後の支援の方針・内容は移行支援会議等で関係機関と共に共有できた。コロナ禍による変更等が多くなったこともあり、マチコミメールを使用して、もう少し細かく発信してもよかった。3密を避け、内容や方法を工夫し、除草作業や進路学習、防災研修会を行った。ICTを活用した教育活動そのものについての情報発信は学校全体としては十分ではなかった。ホームページにおいて、各部より週に1～2件の教育活動や行事について紹介した。</p> | <p>より共通理解を図るため連絡帳の記入の仕方を考え、保護者の記述等に迅速な対応をする。PTA活動は、一人一役を基本に協力していただけるよう支援する。保護者への行事等の変更連絡は、控えとなる書面を設えたり、ホームページやマチコミメールをも更に活用したりして、丁寧に伝える。ICTを活用した授業に取り組み、保護者と相互に連携する。</p> |
| | 個別の教育支援計画の充実 | <p>○個別の教育支援計画の意義や作成・活用の具体的な方法や個別の指導計画との関連について、教職員に周知徹底し、個別の教育支援計画の効果的な活用を推進する。</p> <p>○個別の教育支援計画は、一貫した支援を行うために、関係機関等と連携、協力をしながら作成する。</p> | C | <p>年度始めの部会において、個別の教育支援計画と個別の指導計画との関連について説明することで、理解が深まった。来年度に向け、家庭や関係機関と個別の教育支援計画や個別の支援計画を共有できるように運用方法を改善した。</p> | <p>個別の教育支援計画の運用方法を一部変更したので、そのことについて教職員や家庭、関係機関へ周知し、より効果的に活用するようになっていく。さらに、個別の教育支援計画の作成や活用について課題を整理し、様式等について具体的に改善していく。</p> |
| | 地域のセンター的役割の充実 | <p>○地域の人材や外部専門家を活用し、教職員の専門性を高めるとともに、本校で実践する研修を広く周知し具体的な情報提供や助言を行う。</p> <p>○教育相談における相談内容等を参考に、地域の課題を把握し、外部関係者と情報を共有し、学習や生活支援、就学、就労支援等へ反映させる。</p> | B | <p>発達検査の生かし方についての講演会を開催し、教職員の専門性を高めることにつながった。地域の学校や施設からも多くの方が参加し、良い感想を得た。地域の福祉協議会や研修会等に出席し、地域の課題を把握し、校内の関係者で共有した。</p> | <p>今治市地域支援自立協議会などに出席し、地域や本校の課題を整理した中から、来年度の講演会のテーマを決め、教職員の専門性向上に努めたい。</p> |

| | | | | | |
|------|---------|---|---|---|--|
| 業務改善 | 適切な勤務時間 | ○業務の精選と効率化を図った上で、休憩時間の確保や定時退勤を励行して、教職員の勤務時間の適切な運用に努める。 | C | 会議の精選と終了時間を設定することで効率化を図った。夏季休業中には、連続する4日間の閉庁日を設け、年次有給休暇を取得しやすくなった。また、勤務時間外在校時間が月80時間を超える教職員には学校医の指導のもと、言葉掛けを行った。 | 今後とも会議の精選に加え、効率的な会議の進行を浸透させるとともに、各種行事や文書の必要性を考慮した精選により、ゆとりを持って業務に取り組めるよう努める。また、週1回の定時退勤日をより周知するとともに年次有給休暇の取得を勧め、全教職員のワークライフバランスの確立に取り組む。 |
| | 職場環境の整備 | ○教職員が個人管理する机やロッカーの鍵を整備し、教職員が不安を感じることなく業務に専念できる環境づくりに努める。 ○管理職と各部主事等が連携し、悩みを抱える教職員の早期の把握に努める。 | C | 机やロッカーの鍵整備も順調に進み、各自の貴重品管理の不安を解消できている。 目標チャレンジ制度を活用した管理職による面談の実施や、ハラスメント相談員の設置により、教職員の悩みに早期に対応することができた。また、アンガーマネジメント研修を実施することで、よりよい人間関係を構築する機運を高めることができた。 | 老朽化した備品・設備の修繕や入替えを計画的に実施することで、安全安心かつ快適な職場環境の整備に努めたい。 衛生委員会とも有機的に連携し、悩みを抱える教職員の早期把握と迅速な対応に努めたい。 今後ともアンガーマネジメントをはじめとする心の研修を導入することで、好ましい人間関係構築の動きを醸成していきたい。 |

※ 評価は5段階（A：十分に成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。